

近青協だより 第1号

平成27年度近畿地区青少年教育施設協議会総会並びに基本研修会が平成27年5月7日～5月9日に和歌山県立潮岬青少年の家で行われました。ご参加いただきありがとうございました。



平成27年度近畿地区青少年教育施設協議会役員および理事の選出について

国立曽爾青少年自然の家所長 小杉 信行 氏が会長に選出されました。またその他の役員および理事について下記のメンバーが選出されました。

会長	国立曽爾青少年自然の家所長	小杉	信行氏
副会長	和歌山県立白崎青少年の家所長	赤阪	健司氏
幹事	事務組合立丹波少年の家所長	細見	重彰氏
理事（総会）	和歌山県立紀北青少年の家	池田	憲昭氏
理事（専門）	尼崎市立美方高原自然の家	田中	誉人氏
理事（国立）	国立淡路青少年交流の家	大本	晋也氏



会長就任のご挨拶 国立曽爾青少年自然の家所長 小杉 信行（こすぎ のぶゆき）

今年度より、近畿地区青少年教育施設協議会会長を務めさせていただきます国立曽爾青少年自然の家所長の小杉信行です。

今日の青少年を取り巻く環境の変化や様々な課題が指摘されている中、青少年の健全育成を図るためには、体験活動の充実が求められています。我々青少年教育施設は、豊かな自然を生かし、利用者に様々な体験活動や体験プログラムを意図的・計画的に提供し、青少年の「社会を生き抜く力」の育成に寄与するうえでその役割は益々重要となってきております。

青少年教育施設を取り巻く状況は厳しいものがありますが、こういう時こそ、各施設が連携・協力し、事業の振興及び管理運営の向上を図っていくことが必要です。そのためにも、この近青協が各施設の事業活動や課題等について情報交換、連携・協力の場となり、各施設の充実・発展に繋がるよう、微力ではありますが努力してまいります。

“まなぶ つながる 元気になる”

今後とも皆様の一層のご支援、ご協力をお願い致します。



総会（5月7日開催）で決まったこと、報告されたこと

報告事項

- ・第1号議案「平成26年度近青協 事業報告」
平成26年度に実施された事業内容について報告が行われました。
- ・第2号議案「平成26年度近青協 収支決算書並びに監査結果報告」
前年度の収支について報告がありました。
また、吉田監事より決算書および諸帳簿が正常に処理されたことを確認したとの報告が行われました。
- ・第3号議案「近青協 会則改正案」
下記の内容の改正（赤字部分）を行うことが決まりました。
第12条3 理事は、本会の当該年度役員、**専門委員会及び次年度総会**担当施設の代表者並びに**国立の会員**をもって構成する。
- ・第4号議案「平成27年度近青協 役員及び理事選出案」
平成27年度近畿地区青少年教育施設協議会役員および理事が選出されました。
- ・第5号議案「平成27年度近青協 事業計画案」
平成27年度の事業計画案について報告がありました。
今年度も国立施設と共催し、青少年教育施設職員向け研修を1泊2日で行います。また近青協未加入の施設職も対象とします。
- ・第6号議案「平成27年度近青協 収支予算案」
収入の「繰越金」の取り扱いについて再度、検討することになりました。
→「繰越金」について、研究事業及びその他の活動を支援するための「研究事業等支援費」として取り扱うことになり、修正を行った収支予算表を各施設に配布いたしました。
- ・第7号議案「近青協 役員・事業等年度担当一覧」
平成27年度以降も引き続き担当一覧に従い、担当役職を施設ごとに割り振りしていくことになりました。

協議事項

- ・研究事業の内容について
各施設が抱える課題について、分科会方式で討議することに対し、運営要領と併せて検討を行います。
- ・「近青協だより」の発行等の検討について
FacebookなどSNSを活用する体制を検討します。
- ・会員の募集について
加入促進にチラシを活用します。チラシの内容に意見があるようでしたらお願いします。
- ・その他
近青協活性化につながるアイデアや意見を引き続き募集します。

1. 研究発表～ボランティア受け入れの基本原則と実例 奈良市青少年野外活動センター 張山氏、末武氏

職員は平均的に業務をこなす能力が求められるが、ボランティアには特定の能力をもっている人を雇うことができる。そのことにより施設の運営を活性化することができる。ボランティアを増やすにはその施設のファンを増やす必要がある。そのためには施設としてボランティアの求めているものを把握する必要がある。施設としてボランティアに対する姿勢をはっきりとさせ、職員それぞれがボランティアに共通認識を持つ必要がある。



2. 報告～平成26年度第4回全国青少年教育施設研究集会～ 国立曽爾青少年自然の家 楠瀬企画指導専門職

課題はボランティアの採用・活動、資金の乏しい中での事業推進、悪天候の中のプログラムの効果であると考えている。研究集会及び分科会で施設のあり方として下記の報告があった。

- ・既存のプログラムを見直し、ファミリーに良質の活動を提供することによって自分を見つめ直す施設が各都道府県にあることを知ってもらう必要がある。
- ・自然の中での体験を知らない子どもたちに自然体験活動してもらう。
- ・子どもたちが人に相談するためのきっかけづくりを施設ができること。
- ・幼児の活動を通じて大人を動かし、よい環境を作っていくこと

子どもたちのために、施設のために活動するために青少年教育施設同士での情報交換が必要である。



3. 報告～全国青少年教育施設所長会議～ 国立淡路青少年交流の家 大本所長

参加型として大本所長より所長・職員としてのモットーは何かとの問いかけがあり、それと参加者で交流しあった。各施設長や職員からの意見として「自分自身が楽しく」、「自由」、「笑顔」「利用者の視点」といったものがあつた。また、大本所長からは「同じやるならこだわって」、「同じやるなら楽しんで」とのモットーが出された。



所長研修会

ビブリオバトル

(参加者がそれぞれ推薦する本のプレゼンテーションを行い、評価の投票数の多い本が勝ち残るゲーム。)

各施設長に本を推薦していただき、ビブリオバトルを開催いたしました。



優勝(青少年教育施設職員 必読書大賞)は和歌山県立紀北青少年の家 池田所長推薦の渡辺和子著「置かれた場所で咲きなさい」(幻冬舎)になりました。

その他各施設長に紹介していただいた書籍

○尼崎市立美方高原自然の家 田中所長推薦

書籍名：動物キャラナビ [バイブル]

著者：弦本 将裕

出版社：集英社

○京都府立るり溪少年自然の家 河村所長推薦

書籍名：金子みすゞ (日本語を味わう名詩

編集者：矢崎 節夫, 萩原 昌好

出版社：あすなろ書房

○兵庫県立南但馬自然学校 村上副校長推薦

書籍名：ふるさとを感じるあそび事典一したい・させたい原体験300集

編集者：山田卓三

出版社：農山漁村文化協会

○大阪府立少年自然の家 久木田所長推薦

書籍名：昆虫顔面図鑑 日本編

著者：海野 和男

出版社：実業之日本社

○京都市教育委員会事務局「花背山の家」

書籍名：統計でウソをつく法—数式を使わない統計学入門 (ブルーボックス)

安田所長推薦

著者：ダレル・ハフ
翻訳者：高木 秀玄

出版社：講談社

書籍名：野外ゲームの達人—心と体を動かす100の実践マニュアル

著者：花背山の家, 京都市小学校中学校野外教育研究会

出版社：北大路書房

○大阪市立葛川少年自然の家 吉田所長推薦

書籍名：JKYBライフスキル教育プログラム 小学校5年生用

著者：JKYB研究会

出版社：東山書房

○国立曽爾青少年自然の家 小杉所長推薦

書籍名：体験の風をおこそう—体験活動の企画と展開

著者：田中 壮一郎 (編著)

出版社：悠光堂

○和歌山県立白崎青少年の家 赤阪所長推薦

書籍名：超訳 ニーチェの言葉

翻訳者：白取 春彦

出版社：ディスカヴァー・トゥエンティワン

○事務組合立丹波少年自然の家 細見所長推薦

書籍名：ときめくコケ図鑑

著者：田中美穂
写真：伊沢正名

出版社：山と溪谷社

基本研修会

○社会見学(5月8日実施)

総会と基本研修会の間社会見学として檜野崎灯台を訪問しました。



○基本研修会(5月8日～9日開催)

総会終了後、従来の所長研修に加え、青少年施設に新規採用もしくは経験の浅い職員向けに基本研修会を開催いたしました。

1. 施設は人なり～生き残るために必要なこと～

国立青少年教育振興機構 指導主幹 北見 靖直氏



北見 靖直氏にこれからの施設のあり方および施設職員に求められる資質について、熱くそしてわかりやすく語っていただきました。なお、資料を希望される方は北見氏まで連絡をくださいとのことでした。

2. 青少年教育施設職員の必要な知識およびスキルアップについて



「8分間読書法」(1つの本について各自が8分間ずつ読み、読んだ部分で意見交換を行う。)で参加者同士の意見交換を行いました。